

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名【新】持続可能な農業・農産物流通促進支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部農産園芸課ぎふ清流GAP推進係

電話番号：058-272-1111(内4113)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,500千円 (前年度予算額：0千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	3,500	0	0	0	0	0	0	0	3,500
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

・県では、ぎふ清流GAP及び有機農業について、農産物の生産・流通・消費拡大までの好循環形成の取組みを進めている。

・ぎふ清流GAPでは、流通・販売業者を中心とする「ぎふ清流GAPパートナー」の登録制度を立ち上げ、GAP農産物の取扱いやPR活動を通じて、農業者を応援する体制を構築した。

・現状では、GAP及び有機農業は、産地情報等が流通業者等に認知されておらず、流通・販売量が低調であり、GAP農産物、有機農産物は、個別取引や小口流通が主流で運送費が高く、販路が限られているため、流通・販売業者が取り引きしやすい新たな流通の仕組みづくりが必要である。

(2) 事業内容

① GAP農産物・有機農産物商談会の開催

- ・GAPパートナー企業等を対象に、GAP農産物及び有機農産物の商談会を開催し、商談取引のマッチングを支援。
- ・商談会開催にあたり、商談成約率を高めるため、農業者を対象にプレゼンテーション等に関する事前研修会を開催。

② 新たな共同配送の流通モデルの構築

ア 流通モデル構築のための事前調査

- ・産地情報（生産者、生産品目、出荷時期、数量等）
- ・取扱業者情報（取引店舗掘り起こし、必要品目・数量等）

イ 流通モデルの実証

- ・事前調査から、産地情報と取扱業者の要望をデータ解析
- ・店舗数、取扱数量等から配送業の採算の合うエリアを選定
- ・集荷方法や配送時間等をシミュレーションし、新たな物流方法を実証

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10

(4) 類似事業の有無

グッドな農業を目指すGAP推進PR事業費 【農産園芸課】

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	18	業務旅費
需用費	21	商談会用資材
委託料	3,461	商談会開催、流通モデル販売促進（調査業務、配送実証）
合計	3,500	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略（施策編）
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信
 - ④「ぎふブランド」づくり
- ぎふ農業・農村基本計画
 - (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり
 - ②安心と信頼を届ける農畜水産物の生産展開

(2) 国・他県の状況

- ・国2030年度目標：ほぼ全ての国内産地で国際水準のGAPを実施

(3) 後年度の財政負担

・ぎふ農業・農村基本計画において、GAPや有機農業の普及拡大等を位置づけており、商品取扱い交渉等について令和7年度までの継続支援が必要。

(4) 事業主体及びその妥当性

・カーボンニュートラル等の環境負荷軽減に対応した持続可能な農業を実現するため、GAPや有機農業の生産や消費拡大は県が積極的に支援する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ぎふ清流GAP農産物及び有機農産物の消費者への安定供給体制の構築を図り、流通業者等を通じて消費者に対するぎふ清流GAP及び有機農業の認知度を令和7年度までに25%に増加させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①GAP及び有機農産物の新たな取引品目数	-			10品目	延べ累計 30品目	

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>県民の「食の安全・安心」や環境保全への関心が高まり、また持続可能な農業の実現には、GAPや有機農業の取組みへの消費者理解の促進は重要であり、そのために消費者への農産物PRが必要である。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>ぎふ清流GAPや有機農業の生産、販売、流通促進の取組みを総合的に支援することで、持続可能な農業・農産物の拡大及び消費者拡大が見込まれる。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 2	<p>委託業者による調査、分析結果をもとに、生産者及び流通・販売業者への情報共有や連携活動を通じて、効果的な商談、流通体系の構築が可能となり、効率性が高い。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ぎふ清流GAP及び有機農産物の供給量が少ないため、取扱店舗等への農産物の安定供給、運送コストが高額になるのが課題である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ぎふ清流GAP及び有機農産物を取り扱う意向のある販売店、飲食店等のニーズに対応するため、当事業による商談会開催や流通モデルの構築により、取引件数の拡大や流通・販売量の拡大が期待できる。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	<p>グッドな農業を目指すGAP推進事業費 【農産園芸課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	<p>農産物の消費者向けPRと併せ、農産物の利用する流通販売業者を中心に取引拡大を図ることで、相乗的な効果が期待できる。</p>